

2025 年 5 月 27 日

関西地区地域協議会 御中

公益財団法人 国際人材協力機構

技能実習制度に関する地域協議会への意見提出

当機構は、監理団体、実習実施者に対して、技能実習生の受入れの相談、申請書類の書き方の助言等、総合的な支援を行っている公益法人です。当機構が各種支援を行う中で、技能実習制度及び地域協議会構成員各位に対する各種意見・要望が監理団体等から寄せられておりますので、それらを踏まえ、当機構の意見として提出します。

1. 外国人技能実習機構（OTIT）関連

（1）実地検査に関して

同一項目に対する解釈や指摘が検査員によって異なる、同一検査員が日を置いて前回と異なる見解を示すことがあるという声があるため、指導内容の地域内での斉一化をお願いしたい。

（2）その他制度運営に関して

昨年1月の能登半島地震の際、駐日大使館・領事館が、自国民の所在及び安否について OTIT に情報共有を求めたものの対応が鈍かったため（実際に情報が共有されたのは発生1か月後であったとのこと）、自ら現地に足を運び、独自のネットワークを活用して何とか対応した例がある。今後、東海・東南海トラフ地震などが想定される中で、OTIT、監理団体、実習実施者、本人間の災害発生時の安否確認のためのシステムの構築及び大使館等との情報共有をお願いしたい。

2. 厚生労働省・都道府県関連

（1）技能検定等の受検に関して

技能検定等の受検に関して、監理団体等から実習現場で困難を来しているとして、次のような声が寄せられている。

こうした状況を踏まえ、技能実習生の受検機会拡大等のため、各試験実施機関のみならず、地方自治行政としても技能検定試験・技能実習評価試験の体制構築をお願いしたい。

- ① 受検場所の確保について、技能検定職種の場合自県では試験が実施されないことや、技能評価職種の場合も自県での試験が円滑に実施されないこと等により、受検地が他県の遠隔地になる、遠方から来る試験官の旅費負担が発生するなど、困難を来している（鍛造職種、寝具製作職種、自動車整備職種、金属熱処理業職種等）。
- ② 実技試験の際使用する機械設備・器具等について、現在使われていない旧式のものとなっていること、試験材の入手が困難であること、高価であることなど、苦慮している（型枠施工職種、配管職種、熱絶縁施工職種、防水施工職種、機械加工職種、工業包装職種等）。
- ③ 受検事務関係について、試験実施機関によっては申込書が手書きで煩雑なため WEB 申込やデータで入力できる様式にして欲しい。また、試験日（再受験含む）の日程調整、合否結果の通知に時間がかかり、実習生の在留期限に間に合わないケースがある。
- ④ 試験内容については、特に随時２級・上級試験の難易度が高すぎる（そう菜製造業職種、家具製作職種等）、工法が古いなど試験内容と実際の作業にずれがある（建築板金職種、とび職種、印刷職種等）など、苦慮している。技能実習生向けの試験内容及び試験制度になるよう見直しをして欲しい。
- ⑤ 受検料が材料費等も含め高い（パン製造職種、座席シート縫製職種等）ことに加え、受検料のほかに協力金を求められ負担が大きいことに苦慮している（内装仕上げ施工職種）。

（２）その他制度運用に関して

業務従事や受検に必要な安全衛生技能講習を近隣地域で受講することが困難であるという声があるため、希少言語への対応等、受講機会の拡大をお願いしたい。

※公開の可否：公開可

以上